

# 竹尾治一郎先生略年譜および業績一覧

出生地 大阪市

生年月日 一九二六年十二月三十一日

## 学歴

大阪高等学校文科(旧制) 一九四四年四月入学

大阪高等学校文科乙類 一九四七年三月卒業

京都帝国大学文学部(哲学専攻) 一九四七年四月入学

京都大学文学部(哲学専攻) 一九五〇年九月卒業 文学士

大学院

京都大学大学院文学研究科 一九五〇—六〇年

University of Pennsylvania, Graduate School of Arts and Sciences 1959-60

## 職歴

大阪府立北野高等学校教諭 一九五〇年十二月より一九六二年七月まで

竹尾治一郎先生略年譜および業績一覧

- 大阪学芸大学(専任) 講師 一九六二年八月より一九六四年三月まで  
 大阪学芸大学助教授 一九六四年四月より一九六七年三月まで  
 大阪教育大学(学名改称) 助教授 一九六七年四月より一九七四年三月まで  
 関西大学(文学部) 教授 一九七四年四月より現在にいたる  
 京都大学(文学部) 非常勤講師 一九六八―七二年度  
 京都大学(教養部) 非常勤講師 一九七三―七五年度  
 大阪大学(文学部) 非常勤講師 一九七三年度、一九八六年度  
 大阪大学(人間科学部) 非常勤講師 一九八一年度  
 岡山大学(法文学部) 非常勤講師 一九七七年度  
 神戸大学(文学部) 非常勤講師 一九七〇―七二年度、一九八九年度

## 業 績

## A 著書

- 一 『科学の哲学』(北樹出版、一九七九)。(共著〔編著〕。本人が執筆した部分は下のB、二三に記載してある。)
- 二 『表現と実在』(関西大学出版部、一九八九)。(単著。下のB、一一、一六、一七、一九、二一、三三、三四、三五、二六、二七、二八、二九、三二、三四、三五のおおのを、一部修正の上、含んでいる。)

- 三 『科学哲学』（上海訳文出版社、一九九四）。桂起権、王建新による一の中国語訳
- 四 『分析哲学の発展』（法政大学出版局、一九九七）。（单著）

## B 論文（一のみは共著、他はすべて单著）

- 一 「哲学」。桑原武夫編、『フランス百科全書の研究』（岩波書店、一九五四）所収
- 二 「意味論と科学言語」。「理想」二八二号（理想社、一九五六）
- 三 「科学言語における意味概念」。植田清次編、『分析哲学の諸問題』（理想社、一九五七）所収
- 四 「事実判断と価値判断」。「思想」四一〇号（岩波書店、一九五八）
- 五 「カルナップの『世界の論理的構築』について」。植田清次編、『分析哲学への道』（早稲田大学出版部、一九五八）所収
- 六 「判断の客観性」。植田清次編、『現代哲学の基礎』（早稲田大学出版部、一九六〇）所収
- 七 「ラッセルの教育思想」。「理想」三四五号（理想社、一九六二）
- 八 「Mach on Explanation and Description」.*Memoirs of the Osaka University of Liberal Arts and Education*, A. Humanities Science, No. 11 (1962).
- 九 「Terms and Quantification」.*Memoirs of the Osaka University of Liberal Arts and Education*, A. Humanities Science, No. 15 (1968).
- 一〇 「哲学と論理学」。大関将一編、『私の昭和史』（理想社、一九六八）所収
- 一一 「論理実証主義」。岩崎武雄、沢田允茂、永井成夫編、『講座・現代哲学』第二卷（有信堂、一九六八）所

- 一二 「Sequenzenkalkuelの起源」。『大阪教育大学紀要』、A、人文科学、第一八号（一九六八）
- 一三 「対応するものがない名辞について」。『大阪教育大学紀要』、A、人文科学、第一九号（一九六九）
- 一四 「分析哲学と形而上学」。『理想』、四六一号（理想社、一九七二）
- 一五 「哲学者としてのハインリヒ・シヨルツ」。『大阪教育大学紀要』、A、人文科学、第二二号（一九七二）
- 一六 「分析哲学」。藤沢令夫編、『哲学を学ぶひとのために』（世界思想社、一九七二）所収
- 一七 「行為と価値」。『理想』、四八一号（理想社、一九七三）
- 一八 「事実と価値」。日本哲学会編、『哲学』、二三号（法政大学出版局、一九七三）
- 一九 「心的なものとの物的なもの」。『関西大学文学論集』、第二四卷、第一号（一九七四）
- 二〇 「個体化と知識」。『関西大学文学論集』、第二五号（合併号）（一九七五）
- 二一 「精神と身体」。『理想』、五二三号（理想社、一九七六）
- 二二 「個別者と普遍」。『理想』、五三九号（理想社、一九七八）
- 二三 「はじめに」、「法則的説明」、「理論と観察」。A一（一九七九）、それぞれ、七一―一四、四一―六八、八  
八一―一〇六頁
- 二四 「理論と世界」。『関西大学文学論集』、第二九卷、第一号（一九七九）
- 二五 「理論と世界（Ⅱ）」。『関西大学文学論集』、第二九卷、第四号（一九八〇）
- 二六 「理論と世界（Ⅲ）」。『関西大学文学論集』、第三〇卷、第三号（一九八一）
- 二七 「メタ哲学的考察」。日本哲学会編、『哲学』、三一号（法政大学出版局、一九八一）

- 二八 「パトナムの实在論」。『関西大学文学論集』、第三一巻、第二号（一九八一）
- 二九 「現代アメリカ哲学の展望」。『理想』、五九〇号（理想社、一九八二）
- 三〇 「科学哲学の問題としてのアナキズム」。『関西大学文学論集』、第三二巻、第四号（一九八三）
- 三一 「科学基礎論とは何か」。科学基礎論学会編、『科学基礎論』、第一六巻、第一号（一九八三）
- 三二 「真理条件の意味論について」。『関西大学文学論集』、第三三巻、第四号（一九八四）
- 三三 「科学の实在論について」。『関西大学文学論集』、第三五巻、第3・4合併号（一九八六）
- 三四 「科学の实在論について（II）」。『関西大学文学論集』、第三六巻、創立百周年記念号（一九八六）
- 三五 'Philosophy in Japan after World War II.' *Ruch Filozoficzny*, Tom XLV, Number 2 (1988), pp. 125-134.
- 三六 'Following a Rule in Making Inferences in Natural Language.' *Proceedings of the 12th International Wittgenstein Symposium* (Vienna: Hoelder-Pichler-Tempsky, 1988), pp. 350-353.
- 三七 「状況意味論について(1)」。『関西大学文学論集』、第三九巻、第四号（一九九〇）
- 三八 「状況意味論について(2)」。『関西大学文学論集』、第四〇巻、第一号（一九九〇）
- 三九 「一九八〇年代までの科学哲学とその問題」。日本科学哲学会編、『科学哲学』、第二三号（一九九〇）
- 四〇 「状況意味論について(3)」。『関西大学文学論集』、第四〇巻、第二号（一九九一）
- 四一 「プレントーンとマイノシク」。神野慧一郎編、『現代哲学のバックボーン』（勁草書房、一九九一）、  
第I部、第2章
- 四二 「状況意味論について(4)」。『関西大学文学論集』、第四一巻、第一号（一九九一）

- 四三 「状況意味論について(5)」。『関西大学文学論集』、第四一巻、第二号(一九九二)
- 四四 「状況意味論について(6)」。『関西大学文学論集』、第四一巻、第四号(一九九二)
- 四五 「解釈の方法」。『関西大学文学論集』、第四二巻、第一号(一九九二)
- 四六 「状況意味論について(7)」。『関西大学文学論集』、第四二巻、第二号(一九九二)
- 四七 「ウィーン学団の哲学」。『関西大学文学論集』、第四二巻、第四号(一九九三)
- 四八 「時間とテンズ」。『関西大学文学論集』、第四三巻、第一号(一九九三)
- 四九 「同値の原理とその変形」。『関西大学文学論集』、第四三巻、第一号(一九九三)
- 五〇 「状況意味論について(8)」。『関西大学文学論集』、第四三巻、第二号(一九九三)
- 五一 「ラッセルの哲学」。下のF二二(一九九三)、巻末所収
- 五二 「ポパーと帰納法の問題」。長尾龍一／河上倫逸(編)、『開かれた社会の哲学——カール・ポパーと現代』(未来社、一九九四)所収
- 五三 「デカルトの『省察』における存在証明について(1)」。『関西大学文学論集』、第四三巻、第四号(一九九四)
- 五四 「デカルトの『省察』における存在証明について(2)」。『関西大学文学論集』、第四四巻、第一―四合併号(一九九五)
- 五五 「デカルトの『省察』における存在証明について(3)」。『関西大学文学論集』、第四五巻、第一号(一九九五)
- 五六 「シュテークミュラー『現代哲学の主潮流』第五分冊解説」、下のF二三(一九九五)巻末所収

- 五七 「基礎づけと規約」。『関西大学文学論集』、第四五巻、第四号（一九九六）  
五八 「意味の不確定性について」。『関西大学文学論集』、第四六巻、第二号（一九九六）  
五九 「ウィーン学団」、「統一科学」（事典項目）。『哲学・思想事典』（岩波書店）所収（近刊）

C 学会（口頭）発表（Bに収録のものを除く）

- 一 「科学と哲学」。関西哲学会第二三回（近畿大学、一九七〇）。課題研究並びに討論。『関西哲学会紀要』  
第一一冊（昭和四六年度）所収  
二 「哲学と言語」。関西哲学会第三三三回（鳥根大学、一九八〇）。課題研究並びに討論。『関西哲学回紀要』  
第一六冊（昭和五六年度）所収  
三 「An Exploration of Early Epistemology of Carnap. International Conference on the Vienna Circle and Contemporary Science, Beijing, October 1994.

D 書評、書評論文

- 一 「論理実証主義の遺産」。『哲学研究』五一九号、第四五巻、第一冊（京都哲学会、一九七二）。  
P. Achinstein and S. E. Barker (eds.), *The Legacy of Logical Positivism. Studies in the Philosophy of Science* (Baltimore: The Johns Hopkins Press, 1969) の評  
二 神野慧一郎、内井惣七著『論理学』の評。『シネルヴァ通信』第九九号（一九七六・五）  
三 「論理分析から『言語ゲーム』へ——ウイトゲンシュタイン（藤本隆志訳）『講義集』」。『朝日ジャーナル』  
竹尾治一郎先生略年譜および業績一覧

ル』、第二〇巻、第一号（一九七八）

四 「ヘンペルの『科学的説明の諸問題』。『理想』五四六号（理想社、一九七八）

五 W・M・ジョンストン著（井上修一ほか訳）『ウィーン精神』二巻の評。『文化会議』第二一八号（一九八七・八）

六 O. Weinberger et al. (eds.), *Proceedings of the 12th International Wittgenstein Symposium* の評。『學鏡』（丸善、一九八九・一）

## E その他

一 「科学と人間」。『世界思想』一〇号（一九七五・春）

二 「自由主義と無謬説」。『諸君！』（一九七五・一一）

三 「日本に哲学はあるか」。『諸君！』（一九七六・三）

四 「日本の哲学的風土」。『諸君！』（一九七七・六）

五 「スタンフォードからウィーンへ」。『文化会議』第二〇〇号（一九八六・二）

## F 翻訳

一 『百科全書』(*Encyclopédie, ou Dictionnaire raisonné des Sciences, des Arts et des Métiers* [1751-1772])

項目（執筆者不明）「体系1」、ダランベール、「体系2」(Systeme)「ダランベール」 「力学」(Dynamique)。

桑原武夫編、『百科全書——序論および代表項目』（岩波文庫、一九七二）所収



- 二 J・ホスピーズ、『分析哲学入門』(齊藤哲郎監修)、第五巻、「原因・決定論そして自由」(J. Hospers, *Introduction to Philosophical Analysis*. Chap. 5, "Cause, Determinism, and Freedom") (法政大学出版局、一九七二)
- 三 H・シヨルツ、「論理学・文法学・形而上学」(Heinrich Scholz, 'Logik, Grammatik, Metaphysik' in *Mathesis Universalis* [Basel: Schwabe, 1969])。石本新編『論理思想の革命』(東海大学出版部、一九七二)所収
- 四 E・J・レモン、『論理学初歩』(世界思想社、一九七三)。浅野樞英と共訳。(E. J. Lemmon, *Beginning Logic* [London/Edinburgh: Nelson, 1965])
- 五 D・ヒルベルト/W・マッケルマン、『記号論理学の基礎』(大阪教育図書、一九七四)。石本新と共訳。(D. Hilbert und W. Ackermann, *Grundzuge der theoretischen Logik*, 6. Auflage [Berlin: Springer, 1972])
- 六 R・カルナップ、『論理学の形式化』(紀伊国屋書店、一九七六)。(R. Carnap, *Formalization of Logic* [Cambridge, Mass.: Harvard Univ. Press, 1943] and *Foundations of Logic and Mathematics* [Chicago: Univ. of Chicago Press, 1939])
- 七 A・J・エイヤー、『哲学の中心問題』(法政大学出版局、一九七六)。(A. J. Ayer, *The Central Questions of Philosophy* [London: Weidenfeld and Nicolson, 1973])
- 八 R・カルナップ、「理論的概念の方法論的性格」(R. Carnap, "The Methodological Character of Theoretical Concepts" in *Minnesota Studies in the Philosophy of Science*, Vol. 1 [Minneapolis: Univ. of Min-

- nesota Press, 1956]). 永井成男／内田種臣編、『カルナップ論集』（紀伊国屋書店、一九七七）所収。
- 九 W・シュテークミュラー、『現代哲学の主潮流』第二分冊（法政大学出版局、一九八二）。森匡史、藪木栄夫と共訳。（W. Stegmüller, *Hauptstromungen der Gegenwartphilosophie*, Bd. I, 5. Aufl. [Stuttgart: Kroener, 1975]）
- 一〇 R・カルナップ、『科学の普遍言語としての物理的言語』（R. Carnap, 'Die physikalische Sprache als Universalsprache der Wissenschaft,' *Erkenntnis*, Bd. 2 [1932]）' O・ノイラート、『プロトコロ言明』（O. Neurath, 'Protokolsätze,' *Erkenntnis*, Bd. 3 [1932/33]）' M・シュリック、『事理的マ・プリアリは存在するか』（M. Schlick, 'Gibt es ein materiales Apriori?', *Wissenschaftlicher Jahresbericht der philosophischen Gesellschaft an der Universität Wien fuer das Veremjahr 1930/31*）' O・G・レンク、*「意味の経験論的基準における問題と変遷」*〔山川学と共訳〕（C. G. Hempel, 'Problems and Changes in the Empiricist Criterion of Meaning,' *Revue internationale de Philosophie* 11 [1950]）。以上四篇
- 坂本百大編、『現代哲学基本論文集Ⅰ』（勁草書房、一九八六）所収
- 一一 W・シュテークミュラー、『現代哲学の主潮流』第三分冊（法政大学出版局、一九九二）。土屋盛茂、野本和幸と共訳。（W. Stegmüller, *Hauptstromungen der Gegenwartphilosophie*, Bd. II, 8. Aufl. [Stuttgart: Kroener, 1987]）
- 一二 B・ラッセル、『心の分析』（勁草書房、一九九三）。（B. Russell, *The Analysis of Mind* [London: Allen and Unwin, 1921]）
- 一三 W・シュテークミュラー、『現代哲学の主潮流』第五分冊（法政大学出版局、一九九五）。山内友三郎、

土屋盛茂、中村光世と共訳。(W. Stegmüller, *Hauptstromungen der Gegenwartsphilosophie*, Bd. IV [Stuttgart: Kroener, 1989])。『現代哲学の主潮流』全五巻によつて、日本翻訳家協会より第三十二回日本翻訳出版文化賞（一九九六年）を受賞